

「非破壊試験技術者の認証・認定制度に関する基本方針について」のQ & A

(社)日本非破壊検査協会

本協会は「非破壊試験技術者の認証・認定制度に関する基本方針について」を、機関誌「非破壊検査」50巻6号(平成13年6月号)、認定広報誌「インスパート」平成13年7月号及び協会のホームページで公表いたしました。この基本方針に関して関係各位のご理解を深めて頂くために、認証・認定制度の具体的な事項に関して以下に記載いたしました。ご一読頂き、認証・認定制度に関する協会の取組みにご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なぜ基本方針を変えましたか？

(NDIS 0601 及び NDIS J001 の並行運用から JIS Z 2305 への一元化へ)

・ ISO はご承知のように国際整合を行う上での国際標準で、WTO(世界貿易機関)/TBT 協定(貿易の技術的障害に関する協定)で国内規格を ISO に整合させることが決められております。JIS で技術者の認証を規定することは従来の JIS とは趣旨が異なっていたために、平成 11 年当時 JIS 化の見通しが明確になっていませんでした。このため、JSNDI の認証も最終的には ISO 9712 に対応した認証方式に一元化することを目標にしながら、同時に移行の混乱を最小にするために、中途の措置として NDIS 0601 と ISO 9712 に基づいた NDIS J001 の両方の認証システムを運営して参りました。その後の国際的交渉や ISO の JIS 整合化推進の中で、ISO 9712 についても JIS 化されることとなり、平成 13 年 4 月に JIS Z 2305「非破壊試験 - 技術者の資格及び認証」が制定されました。この JIS の制定は NDT 関係者一同にとって長年の念願であり、大変喜ばしいことであります。

・ この JIS 制定によって NDT 技術者資格が協会規格から日本工業規格にアップされたため、この JIS に基づいて資格認証を一元化して推進すべく基本方針を変えました。

JIS 制定は NDT 関係者にとってどんな意味を持ちますか？

・ 日本非破壊検査協会規格 NDIS 0601 による認定資格は、30 年以上の実績を持っております。

しかしながら、民間団体の規格に基づくものであるために、必ずしも高い評価をされておられません。

んでした。

・民間団体である協会の規格による資格から JIS による資格に変わることにより、認証資格に対す

る社会的評価は一段と向上します。

・JIS として制定されましたので、関係する JIS 及び関連文書類には JIS Z 2305 による認証技術者

が従来に増して記述されやすくなり、NDT の重要性が社会に広く認知されるようになります。その

結果として、NDT 技術者の活躍の場が増えることが期待出来ます。

なぜ NDIS 0601 による認定制度を廃止し、JIS Z 2305 による認証制度に一元化するのですか？

・二つの制度(NDIS 0601 と NDIS J001)における技術者の技術レベルは基本的に同等であり、ただ制度が異なるのみと考えております。これらを融合一元化したのが JIS Z 2305 の認証制度です。

・NDIS 0601 と NDIS J001 の二つの制度をそのまま存続させ、同様な資格を社会に存在させることは関連する業界に混乱を招き、運用上も複雑になります。したがって、JIS Z 2305 による認証制度に一元化することにしました。

NDIS 0601 による認定資格から JIS Z 2305 による認証資格へどのように移行されますか？

・移行は表 1、表 2、表 3 において左欄 NDIS 0601 から右欄 JIS Z 2305 へ平行に移行します。

表 1 1 種からレベル 1 への移行(JIS Z 2305 欄の名称及び記号は JSNDI 規則案の仮称)

	NDIS 0601	JIS Z 2305
RT	放射線透過検査 1 種(RT1)	放射線透過試験レベル 1 (RT1)
UT	超音波探傷検査 1 種(UD1)	超音波探傷試験レベル 1 (UT1)
	超音波厚さ測定 1 種(UM1)	超音波厚さ測定レベル 1 (UM1)
MT	MY1 + ME1 + MC1	磁粉探傷試験レベル 1 (MT1)

	極間法磁粉探傷検査 1 種 (MY1)	極間法磁粉探傷検査レベル 1 (MY1)
	通電法磁粉探傷検査 1 種 (ME1)	通電法磁粉探傷検査レベル 1 (ME1)
	コイル法磁粉探傷検査 1 種 (MC1)	コイル法磁粉探傷検査レベル 1 (MC1)
PT	PD1 + PW1	浸透探傷試験レベル 1 (PT1)
	溶剤除去性浸透探傷検査 1 種 (PD1)	溶剤除去性浸透探傷検査レベル 1 (PD1)
	水洗性浸透探傷検査 1 種 (PW1)	水洗性浸透探傷検査レベル 1 (PW1)
ET	内挿コイル渦流探傷検査 1 種 (ET1)	渦流探傷試験レベル 1 (ET1)
SM	電気抵抗ひずみ測定 1 種 (SM1)	ひずみ測定レベル 1 (SM1)

表 2 2 種からレベル 2 への移行 (JIS Z 2305 欄の名称及び記号は JSNDI 規則案の仮称)

	NDIS 0601	JIS Z 2305
RT	放射線検査 2 種 (RT2)	放射線透過試験レベル 2 (RT2)
UT	超音波検査 2 種 (UT2)	超音波探傷試験レベル 2 (UT2)
MT	磁気検査 2 種 (MT2)	磁粉探傷試験レベル 2 (MT2)
	極間法磁粉探傷検査 2 種 (MY2)	極間法磁粉探傷検査レベル 2 (MY2)
PT	浸透検査 2 種 (PT2)	浸透探傷試験レベル 2 (PT2)
	溶剤除去性浸透探傷検査 2 種 (PD2)	溶剤除去性浸透探傷検査レベル 2 (PD2)
ET	電磁誘導検査 2 種 (ET2)	渦流探傷試験レベル 2 (ET2)
SM	ひずみ測定 2 種 (SM2)	ひずみ測定レベル 2 (SM2)

表 3 3 種からレベル 3 への移行 (JIS Z 2305 欄の名称及び記号は JSNDI 規則案の仮称)

	NDIS 0601	JIS Z 2305
RT	放射線検査 3 種 (RT3)	放射線透過試験レベル 3 (RT3)
UT	超音波検査 3 種 (UT3)	超音波探傷試験レベル 3 (UT3)
MT	磁気検査 3 種 (MT3)	磁粉探傷試験レベル 3 (MT3)

PT	浸透検査 3 種 (PT3)	浸透探傷試験レベル 3 (PT3)
ET	電磁誘導検査 3 種 (ET3)	渦流探傷試験レベル 3 (ET3)
SM	ひずみ測定 3 種 (SM3)	ひずみ測定レベル 3 (SM3)

・移行手順には、NDIS 0601 の資格更新時期の移行(通常移行と呼ぶ)と NDIS 0601 の資格更新時期以前に移行(早期移行と呼ぶ)の二通りがありますが、通常移行を原則とします。

フローチャートを図 1 に示します。なお、再認証試験は、NDIS 0601 における更新試験に対応する

ものです。

NDIS 0601 による認定試験はいつまで実施されますか？

・ JIS Z 2305 による認証業務を開始するまで NDIS 0601 は継続して実施いたします(基本方針では JIS Z 2305 による認証開始は平成 15 年度を目途として準備を進めます)。

早期移行しない場合の NDIS 0601 による資格の有効期限はどうなりますか？

・ JIS Z 2305 実施前の NDIS 0601 で取得した資格は、取得時から 3 年間有効であり、継続申請によりさらに 3 年間有効となります。

JIS Z 2305 による認証制度が開始される時期が、NDIS 0601 の更新試験時期に該当した資格者は？

・ JIS Z 2305 による認証制度の実施が、仮に平成 15 年秋となった場合、この平成 15 年秋が NDIS

0601 の更新試験時期に該当する全資格者は、「移行試験と再認証試験」を受験していただくこととなります。NDIS 0601 の更新試験はなくなります。

NDIS 0601 の資格をとってすぐに JIS Z 2305 へ移行できますか？

・原則は更新時期での移行ですが、特に希望がある場合には、資格登録後であれば移行試験により移行することが可能です。

早期移行した者はその後も NDIS 0601 の資格を持つことができますか？

・ JIS Z 2305 へ移行した後は、NDIS 0601 の資格証明書は発行されません。

早期移行した場合の JIS Z 2305 の有効期限はいつまでとなりますか？

・ NDIS 0601 の更新時期までとなります。

移行試験の内容はどのようになりますか？

・下記について検討しております。

1 種からレベル1:無試験

2 種からレベル2:NDT 指示書に関する問題

3 種からレベル3:認証システムに関する問題

再認証試験の内容はどのようになりますか？

・資格の有効期限前において受験する JIS Z 2305 による再認証試験は、NDIS 0601 による更新試験

に比べて容易なものとなる見通しです。

・レベル3の再認証者には、10年後の再認証試験(筆記試験)の代替として、クレジットシステム(NDT 分野における貢献度評価)を用いることが出来ます。

・移行時の再認証試験には、クレジットシステムは適用されません。

JIS Z 2305 による認証試験の受験料はどうなりますか？

・現在種々の条件を考慮し検討中です。

JIS Z 2305 の受験資格はどうなりますか？

・レベル 1、レベル 2 については、NDT 訓練(訓練時間は各 NDT 方法により異なります)を完了している文書の提出が必要です。

・レベル 3 については、NDT 訓練(訓練時間の要求はない)、NDT 研究発表、NDT 論文発表、NDT 書籍の

執筆、個人的 NDT 学習、又は NDT 講演会の出席等のいずれかを証明する文書の提出が必要です。

訓練を行う者に制約はありますか？

・レベル 1、レベル 2 受験者に対して、訓練者は受験申請する NDT 方法のレベル 2 又は、レベル 3 に認証されていることが必要です。

・レベル 3 が認めた専門家が自身の専門分野について行った訓練も適用されます。

・当面の間、レベル 2 及びレベル 3 を NDIS 0601 に規定する 2 種及び 3 種と読み替えることも出来ます。

JIS Z 2305 の資格の有効期限はどうなりますか？

・資格の有効期限が 3 年から 5 年になります。

NDIS J001 による認証資格はどうなりますか？

・JIS Z 2305 が実施された後に無条件で書き換えられます。

NDIS J001 による資格試験はいつまで実施されますか？

・JIS Z 2305 を実施するまで NDIS J001 の資格試験を継続いたします。

以上